

2 事前調査の方法

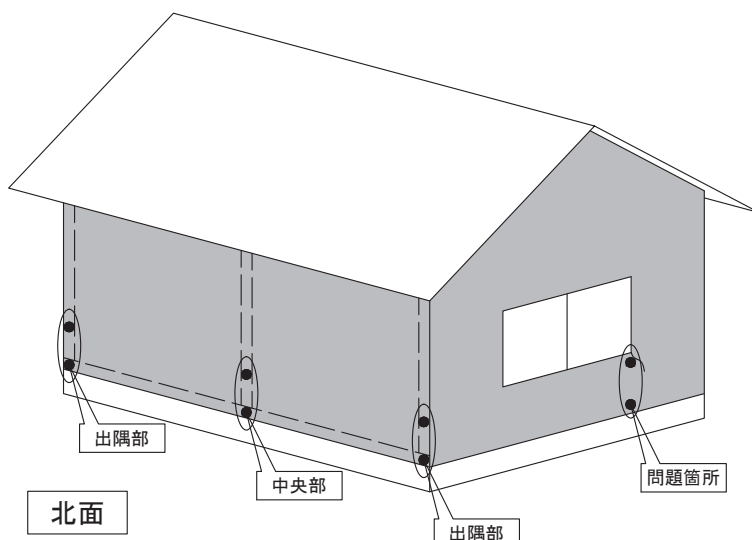
2-2 既存建築物の診断方法

2) 胴縁材保持力チェック試験

- 胴縁材保持力チェック試験は、既存建築物へのサイディング施工にあたり十分な耐力があるかを確認するものです。施工時に使用する胴縁材の留付ビスと木胴縁を、建物の土台・柱に留め付け、専用の測定器（保持力チェッカー、テクノテスター）により留め付け部の保持力を測定します。
- 建物の土台・柱に対するビス保持力の判定基準値は1000Nです。

■ 胴縁保持力チェック試験実施部位

- 胴縁材保持力チェック試験は、下記の部位で実施してください。
 - ・建物北面の出隅部、中央部の土台と各土台から300mm上の柱。
 - ・老朽度診断調査（P26～27）で外壁の部位（6～9）が不合格となった付近の土台と柱。
- ・【既存壁が金具施工の窯業系サイディングにセンターサイディングを施工する場合】
 窯業系サイディングのみに胴縁材留付ビスを固定する入隅部・開口部などにおいて、老朽度診断調査（P26～27）で外壁の部位（6～9）が不合格の場合、テクノテスターにより、窯業系サイディングに対するビス保持力を測定します。窯業系サイディングに対するビス保持力の判定基準値は305Nです。

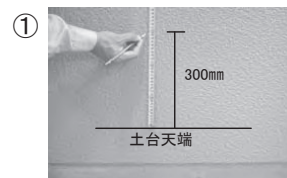


■ 保持力チェッカーによる試験方法

- 保持力チェッカーが切れれば、保持力が1000N以上あると推定でき、合格です。
- 保持力チェッカーの使用手順は以下の通りです。

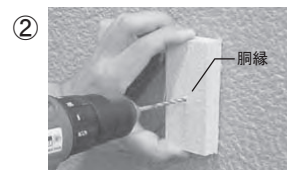
① 試験部分の位置出し

試験実施部分の土台・柱の場所を確認し、印をつけます。
※土台部は中央部、柱は土台天端より300mmです。



② 既存壁への先孔あけ

施工に使用予定の胴縁（長さは100mm程度）と、既存外壁にビス径よりも一まわり大きな先孔をあけます。
※先孔は土台・柱にはあけないように、深さに注意してください。
※モルタル壁にはコンクリート用キリを使用してください。



③ 保持力チェッカーの留め付け

胴縁留付ビス（土台・柱に25mm以上入るもの）は、保持力チェッカーと先孔をあけた胴縁に留め付けます。

